



**MotoGP World Championship
Grand Prix of Japan in MOTEGI**

**ツインリンクもてぎ
ロードレース世界選手権
メディアガイド
1999～2007**

July.17.2008



**TWIN RING
MOTEGI**



1999年

ツインリンクもてぎで世界GP初開催!! シリーズ第2戦として4月22日(金)～25日(日)にわたり激戦が繰り広げられ、500ccクラスはケニー・ロバーツが優勝、阿部典史が3位。250ccクラスでは中野真矢、宇川徹、125ccクラスでは東雅雄、仲城英幸がそれぞれ1～2位となった。

500cc ツインリンクもてぎでの第1回大会はロバーツが優勝

4月22日(金)の予選1回目は、曇天ながら路面はドライ。ここでトップタイムをマークしたのはケニー・ロバーツ(SUZUKI)だった。そして翌日の予選2回目は雨となったために、ロバーツのポールポジションが決定。25日(日)の決勝レースも雨となり、好スタートを切ったロバーツを、阿部典史(YAMAHA)、ミック・ドゥーハン(Honda)、カルロス・チェカ(YAMAHA)が追う展開。だが、ロバーツはファステストラップを連発する好走で、レース終盤でドゥーハンの追い上げを知ると再びペースアップし、ツインリンクもてぎの初王者となった。また、2位にドゥーハンが入り、阿部はレース終盤粘りの走りで3位の表彰台に立った。

250cc 中野、宇川の日本人ライダーが1-2フィニッシュ

雨の予選を制したのはフランコ・バッタイーニ(aprilia)で、中野真矢(YAMAHA)、宇川徹(Honda)が2、3番手につける。決勝レースで、ホールショットを奪ったのは中野で、ワイルドカード参戦の松戸直樹(YAMAHA)が続く。その後、トップに立った松戸だったが、8周目に転倒。これで中野が首位に返り咲き、そのままチェッカー。2位に宇川が入り、ロリス・カピロッシ(Honda)が3位。加藤大治郎と山口辰也(いずれもHonda)が5～6位で、バレンティーノ・ロッシ(aprilia)は7位でゴールした。

125cc 2本の日の丸掲揚!! 東と仲城が1位と2位獲得

唯一ドライ路面で1回目の予選が行われ、ここでトップタイムをマークしたのがルーチョ・チェッキネロ(Honda)だった。雨となった決勝レースでホールショットを奪ったのはロベルト・ロカテッリ(aprilia)だ。しかし、すぐにチェッキネロがトップに立ち、4周目にマックス・サバターニ(Honda)に抜かれて3位に落ちたロカテッリは、5周目のS字コーナーで転倒してしまう。この後、猛追の東雅雄(Honda)が8周目にトップに立ち、そのまま優勝。14周目のヘアピンで2位のサバターニが転倒したことから、仲城英幸(Honda)が2位のチェッカーを受けた。



2000年

シリーズ第3戦日本GP鈴鹿に対して、パシフィック GPとしてツインリンクもてぎで開催されたシリーズ第15戦。250ccクラスで加藤大治郎と中野真矢が1、2位。125ccクラスではロベルト・ロカテッリがチャンピオンを決めた。

500cc ロバーツがツインリンクもてぎでV2達成!!

シリーズ第14戦ブラジルでチャンピオンを決めたケニー・ロバーツ(SUZUKI)が、新王者の貴祿を見せつける形となった。予選では、マックス・ビアッジ(YAMAHA)がポールポジションを獲得するが、予選2番手のロバーツが決勝レースでホールショットを決めると、そのままトップでチェッカー。前年に続き、ツインリンクもてぎ2連覇を達成した。また、2位争いは、スタートで出遅れたビアッジと、予選5番手のバレンティーノ・ロッシ(Honda)の間で激しく争われ、最終ラップでビアッジをパスしたロッシが、僅差で2位のチェッカーを受けた。また、日本人の最上位は5位の阿部典史(YAMAHA)となった。

250cc 加藤と中野が1-2フィニッシュ!!

1分52秒574を記録した加藤大治郎(Honda)がポールポジションを獲得するが、0.5秒以内にマルコ・メランドリ(Honda)、中野真矢(YAMAHA)が続き、フロントロウ最後の一角には宇川徹(Honda)が並び予選結果。決勝レースは、加藤と中野がファステストラップを塗り替えながらの凄絶なバトルを繰り広げ、0.707秒差で中野を抑えた加藤が優勝。鈴鹿・日本GPでの優勝を含め、今季4勝目となった。

125cc ロカテッリがチャンピオン決定!!

チャンピオンに王手をかけたロベルト・ロカテッリ(aprilia)がポールポジションを獲得。ロカテッリを唯一逆転できるのが宇井陽一(DERBI)で、ルーチョ・チェッキネロ(Honda)に次ぐ3番手スタートとなった。決勝レースは、ロカテッリがチャンピオンに向けて加速。ライバル宇井は、序盤こそ追撃態勢にあったが、徐々に遅れると、後続集団に飲み込まれた後に転倒リタイア。これでロカテッリがチャンピオンとなり、ツインリンクもてぎで初めて世界チャンピオンが決定した。



2001年

500ccクラスのロッシ、250ccクラスの前田、125ccクラスの宇井がそれぞれツインリンクもてぎ初制覇を遂げた。

500cc ビアッジ転倒!! ロッシが初めてツインリンクもてぎを制する

ポイントリーダーのバレンティーノ・ロッシ(Honda)と、追うマックス・ビアッジ(YAMAHA)。シーズン終盤を迎え、二人の戦いはヒートアップ。ポールポジションを獲得したのはロリス・カピロッシ(Honda)で、第8戦から続くビアッジの連続ポールポジションにストップをかけた。しかし、決勝レースはビアッジと予選4番手のロッシが一騎打ち。だが、6周目にビアッジが転倒するというあっけない幕切れとなり、この結果、ロッシがチャンピオンに王手をかけた。また、2位にアレックス・パロス、3位にロリス・カピロッシが入り、Hondaがこの年3度目となる表彰台独占。なお、日本人の最上位は4位の阿部典史(YAMAHA)となった。



250cc 前田が独走でツインリンクもてぎを初制覇!!

加藤大治郎(Honda)と前田哲也(aprilia)。日本を代表する二人のライダーが激しいチャンピオン争いを展開。予選では、0.024秒差で前田がポールポジションを獲得し、加藤は2番手。決勝レースでは、加藤が好スタートを切るものの、第1コーナーでは前田とマルコ・メランドリ(aprilia)が先行。その後、ペースを上げた前田に対し、追うメランドリが転倒。加藤もこれに巻き込まれてリタイアとなり、前田が独走で3勝目を記録した。



125cc 圧倒的な速さで宇井がツインリンクもてぎ初V達成

予選2番手のマニュエル・ポッジャーリ(GILERA)に0.685秒差をつけてポールポジションを獲得した宇井陽一(DERBI)。決勝レースでも宇井の速さは衰えることなく、2周目にトップに立つと、その後を独走してこの年の3勝目を記録した。2位にはポッジャーリ、3位には予選7番手のダニエル・ペドロサ(Honda)が入り、途中、宇井のスパートについていこうとした予選4番手のトニー・エリアス(Honda)は転倒・リタイアに終わった。



開幕戦の鈴鹿で達成されたWGPホンダ500勝を記念して歴代マシンとともにフレディ・スペンサー、ミック・ドゥーハンがゲストに招かれ、2人によるパレードランが行なわれた。



2002年

従来の2ストローク500ccマシンに加え、4ストローク990ccのMotoGPマシンが登場し、世界GPは新時代を迎えた。

500cc/MotoGP 初のMotoGPバトルをバロスが制する

MotoGPマシンの登場によって急展開。シリーズ第13戦までにマシンは細かい改良が加えられ、ポテンシャルを上げていた。また、Kawasakiがこのクラスに復帰して話題を集める。予選では、加藤大治郎(Honda)がポールポジションを獲得。決勝レースは、予選5番手のマックス・ビアッジ(YAMAHA)の好スタートで幕を開けるが、シリーズ第12戦ブラジルでチャンピオンを決めたバレンティーノ・ロッシ(Honda)がすぐにトップに立ち、アレックス・バロス(Honda)、加藤の4人がトップグループを形成する。その後、加藤はマシントラブルで脱落。レース終盤でトップに立ったバロスが逃げ、ロッシを抑えて優勝を遂げた。



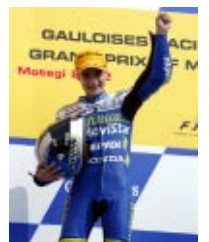
250cc ワイルドカード参戦の高橋が好走で3位に!!

フォンシ・ニエト、マルコ・メランドリ、ランディ・ドゥ・プニエ(いずれもaprilia)に続き、ワイルドカードの高橋裕紀(Honda)が4番手でフロントロウ。決勝レースは、トニー・エリアス(aprilia)、高橋、メランドリが凄絶なトップバトルを展開。一時後退したエリアスは、再びペースを上げて17周目に高橋をパス。最終ラップの最終コーナーではメランドリをもパスして優勝。高橋は3位をキープしてチェッカーを受けて表彰台に立った。



125cc 全セッション制覇のペドロサが独走優勝

フリー走行を含めた全セッションでトップタイムを記録したダニエル・ペドロサ(Honda)が、レース序盤ではアルヌー・ヴァンサン(GILERA)に攻められるものの、徐々にペースを上げると独走優勝を遂げた。単独2番手となったヴァンサンだったが、その後にマシントラブルが発生。これで2位はマヌエル・ポッジャーリ(GILERA)となり、このポッジャーリとのバトルの末スティーブ・イエンクナー(aprilia)が僅差の3位となった。



2002年から1コーナーのコースサイドに特設スタンドが設けられるようになり、MotoGPの迫力を目の前で味わうことができるようになった。



2003年

MotoGPクラスでは、4ストローク990ccマシン一色となり、DucatiとKawasakiが参戦。また、モリワキが独自マシンを投入して注目を集める。

MotoGP ビアッジが独走優勝!! Honda RC211Vが表彰台を独占!!

予選では、マックス・ビアッジがポールポジションを獲得。以下、玉田誠、バレンティーノ・ロッシ、セテ・ジベルノー、ニックー・ヘイデンと続き、Honda RC211Vが予選上位を独占。決勝レースでは、3周目にトップに立ったビアッジが一気に加速。これに対応できたのはロッシだけだったが、そのロッシもレース中盤にコースアウト。これでビアッジは独走で優勝。2位にロッシ、そして3番手で玉田誠がチェッカーを受けるが、その後に玉田はペナルティにより順位が無効となり、代わってヘイデンが3位となった。また、このクラスにDucatiとKawasakiが本格参戦。また、モリワキが独自フレームのMD211VFで参戦し、18位完走した。



250cc 絶好調のエリアスが独走優勝を達成

トニー・エリアス (aprilia) がポールポジションを獲得するが、フランコ・バッタイーニ (aprilia) らが僅差で続く状態。しかし、決勝レースで好スタートを切ったエリアスが、すぐに独走態勢に持ち込むと完全にレースを支配した。そして2位は、マニエル・ポッジアリー (aprilia) とのバトルを制したロベルト・ロルフォ (Honda) のものとなった。なお、日本人の最上位は、4位の高橋裕紀 (Honda) となった。



125cc ペドロサ失速!! 優勝は16歳のバルベラ

ポイントリーダーのダニエル・ペドロサ (Honda) がポールポジションを獲得し、決勝レースのスタートでもホールショットを奪いレースをリードするが、レース終盤で一気に失速、結果、6位となる。代わってトップに立ったのは16歳のエクトル・バルベラ (aprilia) で、17歳のアンドレア・ドビツィオーゾ (Honda)、同じく17歳のケーシー・ストーナー (aprilia) を抑えて、この年の2勝目を挙げた。



2003年を最後に表彰台は1ピット上からグランドスタンド正面へと移設されることとなる。



2004年

この年からツインリンクもてぎ単独開催となり、日本のMotoGPファンの期待を一身に浴びる玉田誠が、それに応えポールポジションを獲得。レースでも、王者バレンティーノ・ロッシを引き離してパーフェクト・ウインを達成した。

MotoGP 玉田がロッシを引き離して独走優勝!! 中野真矢が3位!!

スタート直後の第1コーナーで予選2番手のジョン・ホプキンス(SUZUKI)と3列目スタートのロリス・カピロッシ(Ducati)が接触し転倒。このアクシデントにマックス・ビアッジ(Honda)、ケニー・ロバーツ(SUZUKI)、コーリン・エドワーズ、ニックー・ヘイデン(ともにHonda)が巻き込まれる。一方、トップに立ったのはバレンティーノ・ロッシ(YAMAHA)で、これをポールシッター玉田誠(Honda)が追い、序盤はこの二人の一騎打ちとなった。そして、6周目の90度コーナーで玉田がロッシをかわしてトップに出ると、その後独走でレースを制した。また、中野真矢(Kawasaki)がカワサキに23年ぶりとなる表彰台、3位をもたらした。



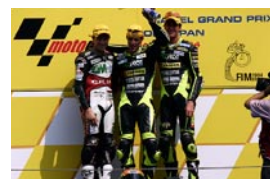
250cc 参戦1年目の青山博一が3位表彰台を獲得

ダニ・ペドロサ(Honda)がポールポジションからスタート、これにトニ・エリアス(Honda)が続き、両者は何度も順位を入れかえるトップ争いを展開。しかし、残り6周でペドロサがスパート。エリアスはずついていけず、ペドロサが優勝。エリアスは2位、フル参戦1年目の青山博一(Honda)が3位に入った。また、ワイルドカード参戦の高橋裕紀(Honda)がセバスチャン・ポルト(aprilia)に次ぐ5位となった。



125cc 赤旗中断後もドビツィオーゾが好走で優勝

決勝レースは、1周目の90度コーナーでエクトル・バルベラ(aprilia)をパスしたケーシー・ストーナー(KTM)がトップに立つが、2周目にマシントラブルでリタイア。代わってトップに立ったアンドレア・ドビツィオーゾ(Honda)がファステストラップを連発。その直後にアクシデント発生で赤旗中断となったが、13週の仕切り直しレースも、好調を持続させたドビツィオーゾが安定した速さで優勝を遂げた。



人気No1スタンドの90度コーナー席。2004年も90度コーナーで多くのオーバーテイクシーンが見られ、満席のファンを沸かせた。



2005年

MotoGPクラスはロリス・カピロッシがマックス・ビアッジとの一騎打ちを制し、自身、そしてDucatiに2年ぶりの優勝をもたらす。250ccクラスでは、フル参戦2年目の青山博一が独走で初優勝を達成した。

MotoGP カピロッシ優勝!! Ducatiがツインリンクもてぎを制する

3番グリッドからスタートしたマルコ・メランドリ(Honda)がホールショットを奪い序盤をリード。ロリス・カピロッシ(Ducati)、マックス・ビアッジ(Honda)が続き、この3台がやや抜け出す。11番グリッドからスタートしたバレンティーノ・ロッシ(YAMAHA)は1周目から激しい追い上げを見せ、4周目には4番手に浮上。レース中盤にビアッジ、カピロッシが相次いでメランドリをかわし、今度はロッシがメランドリに迫る。そして13周目の90度コーナーでロッシはメランドリのインを突くが両者は接触し転倒。カピロッシとビアッジのトップ争いは、レース終盤にカピロッシがスパートして決着。3位に玉田誠(Honda)が入った。



250cc 青山博一が初優勝を達成

ポールシッター青山博一(Honda)がホールショットを奪うが、ホルヘ・ロレンソ(Honda)、アレックス・デ・アンジェリス(aprilia)にかわされ、1周目は3番手。しかし青山は4周目にデ・アンジェリス、5周目にロレンソをかわしてトップに再浮上。レース終盤には自己ベストを更新する走りで見事初優勝を飾った。2位争いのデ・アンジェリスとロレンソが最終ラップに接触。ダニ・ペドロサ(Honda)が2位となった。



125cc カリオが優勝。小山が4位入賞を果たす

3番グリッドのマティア・パシーニ(aprilia)が好スタートを見せるが、レース序盤は激しいトップ争いが展開される。レース中盤では、ミカ・カリオ(KTM)がペースを上げ、トーマス・ルティ(Honda)、ガボール・タルマクシ(KTM)が追走。しかし、タルマクシは14周目に、ルティは16周目に転倒してしまい、さらにルティのマシンに後続が接触。赤旗中断となり15周終了時点でレースは成立。カリオが優勝、ルティが2位となった。



グランドスタンドはサポーターズシートが定着。至るところでフラッグが振られるようになった。



2006年

Ducatiのロリス・カピロッシが2年連続で強さを見せた。ポールポジションからホールショットを奪い、そのままバレンティーノ・ロッシを引き離して優勝。250ccクラスも青山博一が2年連続で優勝を飾った。

MotoGP カピロッシ+Ducatiがツインリンクもてぎ2連覇

990cc最後のシーズンとなったこの年、Ducatiのロリス・カピロッシが2年連続で速さを見せつけた。ポールポジションからホールショットを奪いレースをリード。レース序盤はマルコ・メランドリ(Honda)が背後につけるが、カピロッシが抑え込む。そのメランドリをかかわして2番手に浮上したバレンティーノ・ロッシ(YAMAHA)も追い上げてくるが、さらにペースを上げたカピロッシが独走で優勝を飾った。2位ロッシ、3位メランドリ。最終ラップにセテ・ジベルノー(Ducati)と中野真矢(Kawasaki)が90度コーナーで接触。中野は転倒リタイアとなり、ジベルノーが、そのまま4位でゴールした。



250cc KTMに移籍した青山博一がツインリンクもてぎで2連覇達成

アンドレア・ドビツィオーゾ(Honda)のリードで始まったレース。4番グリッドからスタートした青山博一(KTM)は、やや出遅れ7番手で1周目を終えるが、4周目に3番手に上がると6周目に一気にトップに浮上する。その後、レースをコントロールした青山はアレックス・デ・アンジェリス(aprilia)の追撃を抑え、2年連続で日本GPを制した。なお、高橋裕紀(Honda)は3番手走行中に転倒リタイアに終わっている。



125cc バウティスタとのマッチレースを制したカリオが2連覇達成

セカンドグリッドからスタートしたミカ・カリオ(KTM)とポールシッターのアルバロ・バウティスタ(aprilia)のマッチレースとなった。ホールショットはカリオが奪うが、すぐにバウティスタがトップに浮上。レース終盤の16周目にカリオが再びトップに立つが、バウティスタも18周目に抜き返す。そして20周目にトップを奪ったカリオがそのまま逃げ切り、日本GP2連覇達成。日本勢は小山知良(Malaguti)の7位が最高位。



表彰台は世界でも珍しくグランドスタンドの目の前に設置され、レース直後には多くのファンが集まり、表彰台前は最高潮の盛り上がりを見せる。

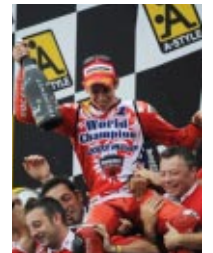


2007年

不安定な天候となった決勝レース。MotoGPクラスは“フラッグ to フラッグ”が適用される大荒れの展開に。コンディションをうまく読んだロリス・カピロッシが日本 GP で3連覇を達成した。

MotoGP ストナーがチャンピオン決定!! カピロッシが日本 GP3 連覇

真夏を思わせる暑さが一転、決勝日は雨となり気温も大幅に下がった。MotoGPクラスは“フラッグ to フラッグ”が適用され、まずはウェットタイヤを履いたマシンでスタート。路面が乾き始めると次々にピットインし、ドライタイヤを履いているマシンに乗り換えコースに戻っていく。このピット作業を終えた時点でトップに立っていたのはロリス・カピロッシ (Ducati) だった。早めにピットインしたのが功を奏し、そのままトップでチェッカー、日本 GP で3連覇を達成した。2位にランディ・ド・ピュニエ (Kawasaki) が、3位にトニ・エリアス (Honda) が入った。また、ケーシー・ストーナー (Ducati) が6位に入りタイトルを決めた。



250cc 青山博一が無念の転倒。カリオが250ccクラスで初優勝

ポールシッター青山周平 (Honda) がホールショットを奪うが、すぐにアンドレア・ドビツィオーゾ (Honda) がトップに立つ。青山周平は徐々に順位を下げ、代わって青山博一 (KTM)、ミカ・カリオ (KTM)、高橋裕紀 (Honda)、ヘクトル・バルベラ (aprilia) がドビツィオーゾに続く。レース終盤22周目の第3コーナーで青山博一が転倒。カリオがトップでゴールし、250ccクラスの初優勝を達成した。



125cc ポールシッターのパッシーニが独走優勝を達成

ポールポジションのマティア・パッシーニ (aprilia) がホールショットを決め、2番グリッドの小山知良 (KTM) がこれに続く。しかし小山はペースが上がらず徐々に後退。代わってガボール・タルマクシ (aprilia) がパッシーニに迫るが、再びペースを上げたパッシーニが独走で優勝し、タルマクシが2位、3位にヘクトル・ファウベル (aprilia) が入り、小山は14位でゴールするのが精一杯だった。



最終コーナー側から見えるグランドスタンド。きれいにメーカー色に染まったスタンドはライダー達も一目置く存在となっている。



1999年

FIM'99ロードレース世界選手権 第2戦 マールボロ 日本グランプリ

4月23日(金) 予選一日目 天候:曇/雨 観客: 7,000人
24日(土) 予選二日目 天候:雨 観客: 21,000人
25日(日) 決勝 天候:雨 観客: 65,000人

	125cc				250cc				500cc			
予選	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ
	1 L.チェッキネロ	H	2'00.785	D	1 F.バツタイーニ	A	2'06.752	D	1 K.ロバーツ	S	1'50.826	M
	2 R.ロカテッリ	A	2'00.935	D	2 中野 真矢	Y	2'07.201	D	2 M.ドゥーハン	H	1'51.153	M
	3 E.アルツァモラ	H	2'01.005	D	3 宇川 徹	H	2'07.207	D	3 C.チェカ	Y	1'51.332	M
決勝	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ
	1 東 雅雄	H	46'17.752	B	1 中野 真矢	Y	48'52.950	D	1 K.ロバーツ	S	51'54.386	M
	2 仲城 英	H	46'39.655	D	2 宇川 徹	H	48'55.647	D	2 M.ドゥーハン	H	51'58.227	M
	3 E.アルツァモラ	H	46'50.275	D	3 L.カピロッシ	H	49'02.210	D	3 阿部 典史	Y	52'16.144	M
データ	■ファステストラップ: Lap 13 M.サバターニ 2'10.519 132.422km/h				■ファステストラップ: Lap 19 宇川 徹 2'05.726 137.470km/h				■ファステストラップ: Lap 19 M.ドゥーハン 2'02.889 140.643km/h			
	■サーキットレコードラップ: 1999 M.サバターニ 2'10.519 132.422km/h				■サーキットレコードラップ: 1999 宇川 徹 2'05.726 137.470km/h				■サーキットレコードラップ: 1999 M.ドゥーハン 2'02.889 140.643km/h			
	■サーキットベストラップ: 1999 L.チェッキネロ 2'00.785 143.093km/h				■サーキットベストラップ: 1999 O.ジャック 1'54.278 151.241km/h				■サーキットベストラップ: 1999 K.ロバーツ 1'50.826 155.952km/h			

2000年

FIM 2000 ロードレース世界選手権シリーズ 第15戦 パシフィックグランプリ もてぎ

10月13日(金) 予選一日目 天候:曇 観客: 6,300人
14日(土) 予選二日目 天候:快晴 観客: 18,000人
15日(日) 決勝 天候:晴/曇 観客: 66,000人

	125cc				250cc				500cc			
予選	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ
	1 R.ロカテッリ	A	1'58.831	B	1 加藤 大治郎	H	1'52.574	D	1 M.ピアッジ	Y	1'49.954	M
	2 L.チェッキネロ	H	1'59.351	D	2 M.メランドリ	A	1'52.934	D	2 K.ロバーツ	S	1'50.140	M
	3 宇井 陽一	DER	1'59.636	D	3 中野 真矢	Y	1'52.959	D	3 L.カピロッシ	H	1'50.286	M
決勝	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ
	1 R.ロカテッリ	A	41'55.152	D	1 加藤 大治郎	H	43'26.394	D	1 K.ロバーツ	S	46'23.327	M
	2 E.アルツァモラ	H	42'08.942	D	2 中野 真矢	Y	43'27.101	D	2 V.ロッシ	H	46'29.502	M
	3 S.サンナ	A	42'11.581	D	3 M.メランドリ	A	43'46.071	D	3 M.ピアッジ	Y	46'29.687	M
データ	■ファステストラップ: Lap 7 R.ロカテッリ 1'58.816 145.465km/h				■ファステストラップ: Lap 23 中野 真矢 1'52.253 153.970km/h				■ファステストラップ: Lap 22 V.ロッシ 1'50.591 156.283km/h			
	■サーキットレコードラップ: 2000 R.ロカテッリ 1'58.816 145.465km/h				■サーキットレコードラップ: 2000 中野 真矢 1'52.253 153.970km/h				■サーキットレコードラップ: 2000 V.ロッシ 1'50.591 156.283km/h			
	■サーキットベストラップ: 2000 R.ロカテッリ 1'58.816 145.465km/h				■サーキットベストラップ: 2000 中野 真矢 1'52.253 153.970km/h				■サーキットベストラップ: 2000 M.ピアッジ 1'49.954 157.189km/h			

2001年

FIM 2001 ロードレース世界選手権シリーズ 第13戦 パシフィックグランプリ もてぎ

10月5日(金) 公式練習 天候:曇 観客: 6,300人
6日(土) 予選 天候:晴 観客: 17,531人
7日(日) 決勝 天候:曇 観客: 66,325人

	125cc				250cc				500cc			
予選	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ
	1 宇井 陽一	DER	1'58.603	D	1 原田 哲也	A	1'52.789	D	1 L.カピロッシ	H	1'49.800	M
	2 M.ボツジャーリ	G	1'59.288	D	2 加藤 大治郎	H	1'52.813	D	2 M.ピアッジ	Y	1'50.248	M
	3 東 雅雄	H	1'59.546	B	3 M.メランドリ	A	1'53.115	D	3 A.パロス	H	1'50.511	M
決勝	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ
	1 宇井 陽一	DER	42'01.711	D	1 原田 哲也	A	43'59.587	D	1 V.ロッシ	H	46'32.600	M
	2 M.ボツジャーリ	G	42'02.715	D	2 E.アルツァモラ	H	44'07.146	D	2 A.パロス	H	46'35.207	M
	3 D.ベドロサ	H	42'02.840	D	3 J.マクウイリアムス	A	44'07.611	D	3 L.カピロッシ	H	46'42.365	M
データ	■ファステストラップ: Lap 9 宇井 陽一 1'59.010 145.228km/h				■ファステストラップ: Lap 12 原田 哲也 1'53.767 151.921km/h				■ファステストラップ: Lap 13 V.ロッシ 1'51.030 155.666km/h			
	■サーキットレコードラップ: 2000 R.ロカテッリ 1'58.816 145.465km/h				■サーキットレコードラップ: 2000 中野 真矢 1'52.253 153.970km/h				■サーキットレコードラップ: 2000 V.ロッシ 1'50.591 156.283km/h			
	■サーキットベストラップ: 2001 宇井 陽一 1'58.603 145.726km/h				■サーキットベストラップ: 2000 中野 真矢 1'52.253 153.970km/h				■サーキットベストラップ: 2001 L.カピロッシ 1'49.800 157.409km/h			

ファステストラップ: 当該レースにおける決勝中の最速ラップタイム

サーキットレコード: 過去から当該レースまでの決勝レース中の最速ラップタイム(フリー走行、予選は含まれない)

サーキットベストラップ: 過去から当該レースまでの全セッションにおける最速タイム

※マシン略称 A=アプリリア、D=ドゥカティ、DER=デルビ、G=ジレラ、H=ホンダ、K=カワサキ、S=スズキ、Y=ヤマハ

※タイヤ略称 B=ブリヂストン、D=ダンロップ、M=ミシュラン



MotoGP World Championship
Grand Prix of Japan in MOTEGI

2002年

2002 MotoGP世界選手権シリーズ 第13戦
パシフィックグランプリ もてぎ

10月4日(金) 公式練習 天候:晴 観客: 6,308人
5日(土) 予選 天候:晴 観客: 17,885人
6日(日) 決勝 天候:晴 観客: 54,860人

	125cc				250cc				MotoGP			
予選	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ
	1 D.ベドロサ	H	1'58.026	D	1 F.ニエト	A	1'52.389	D	1 加藤 大治郎	H	1'49.052	M
	2 M.ボツジャーリ	G	1'58.139	D	2 M.メランドリ	A	1'52.490	D	2 M.ピアッジ	Y	1'49.162	M
3 S.ユンケナー	A	1'58.688	D	3 R.ドビュニエ	A	1'53.043	D	3 L.カピロッシ	H	1'49.169	M	
決勝	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ
	1 D.ベドロサ	H	41'43.377	D	1 T.エリアス	A	43'52.991	D	1 A.パロス	H	44'18.913	M
	2 M.ボツジャーリ	G	41'51.448	D	2 M.メランドリ	A	43'53.166	D	2 V.ロッシ	H	44'20.554	M
3 S.ユンケナー	A	41'52.078	D	3 高橋 裕紀	H	43'57.422	B	3 L.カピロッシ	H	44'26.585	M	
データ	■ファステストラップ: Lap 12 D.ベドロサ 1'58.354 146.033km/h				■ファステストラップ: Lap 22 T.エリアス 1'53.392 152.423km/h				■ファステストラップ: Lap 24 A.パロス 1'49.947 157.199km/h			
	■サーキットレコードラップ: 2002 D.ベドロサ 1'58.354 146.033km/h				■サーキットレコードラップ: 2000 中野 真矢 1'52.253 153.970km/h				■サーキットレコードラップ: 2002 A.パロス 1'49.947 157.199km/h			
	■サーキットベストラップ: 2002 D.ベドロサ 1'58.026 146.438km/h				■サーキットベストラップ: 2000 中野 真矢 1'52.253 153.970km/h				■サーキットベストラップ: 2002 加藤 大治郎 1'49.052 158.489km/h			

2003年

2003 MotoGP世界選手権シリーズ 第13戦
ゴロワーズ パシフィックグランプリ もてぎ

10月3日(金) 公式練習 天候:晴 観客: 6,329人
4日(土) 予選 天候:晴 観客: 17,901人
5日(日) 決勝 天候:晴 観客: 56,008人

	125cc				250cc				MotoGP			
予選	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ
	1 D.ベドロサ	H	1'57.736	D	1 T.エリアス	A	1'52.849	D	1 M.ピアッジ	H	1'47.696	M
	2 S.ベルジーニ	A	1'58.558	D	2 F.パツタイニ	A	1'52.965	D	2 玉田 誠	H	1'47.804	B
3 J.ロレンツォ	DER	1'58.662	D	3 R.ドビュニエ	A	1'53.247	D	3 V.ロッシ	H	1'48.030	M	
決勝	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ
	1 H.バルベラ	A	41'54.483	D	1 T.エリアス	A	43'57.125	D	1 M.ピアッジ	H	43'57.590	M
	2 C.ストーナー	A	41'54.647	D	2 R.ロルフオ	H	43'58.608	D	2 V.ロッシ	H	44'01.344	M
3 A.ドビツィオーゾ	H	41'54.787	D	3 M.ボツジャーリ	A	43'59.284	D	3 N.ヘイデン	H	44'03.231	M	
データ	■ファステストラップ: Lap 8 J.ロレンツォ 1'58.545 145.797km/h				■ファステストラップ: Lap 6 T.エリアス 1'53.612 152.128km/h				■ファステストラップ: Lap 16 V.ロッシ 1'48.885 158.732km/h			
	■サーキットレコードラップ: 2002 D.ベドロサ 1'58.354 146.033km/h				■サーキットレコードラップ: 2000 中野 真矢 1'52.253 153.970km/h				■サーキットレコードラップ: 2003 V.ロッシ 1'48.885 158.732km/h			
	■サーキットベストラップ: 2003 D.ベドロサ 1'57.736 146.799km/h				■サーキットベストラップ: 2000 中野 真矢 1'52.253 153.970km/h				■サーキットベストラップ: 2003 M.ピアッジ 1'47.696 160.485km/h			

2004年

2004 MotoGP世界選手権シリーズ 第12戦
キャメル日本グランプリ

9月17日(金) 公式練習 天候:晴 観客: 7,514人
18日(土) 予選 天候:曇 観客: 20,031人
19日(日) 決勝 天候:晴 観客: 67,158人

	125cc				250cc				MotoGP			
予選	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ
	1 A.ドビツィオーゾ	H	1'58.385	D	1 D.ベドロサ	H	1'52.137	D	1 玉田 誠	H	1'46.673	B
	2 R.ロカテッリ	A	1'58.427	D	2 青山 博一	H	1'52.366	D	2 J.ホプキンス	S	1'47.230	B
3 C.ストーナー	KTM	1'58.576	D	3 R.ドビュニエ	A	1'52.453	D	3 V.ロッシ	Y	1'47.275	M	
決勝	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ
	1 A.ドビツィオーゾ	H	25'52.175	D	1 D.ベドロサ	H	43'36.798	D	1 玉田 誠	H	43'43.220	B
	2 F.ライ	G	26'03.257	D	2 T.エリアス	H	43'39.972	D	2 V.ロッシ	Y	43'49.388	M
3 S.コルシ	H	26'03.276	D	3 青山 博一	H	43'52.789	D	3 中野 真矢	K	43'56.616	B	
データ	■ファステストラップ: Lap 4 A.ドビツィオーゾ 1'58.766 145.526km/h				■ファステストラップ: Lap 19 D.ベドロサ 1'52.788 153.239km/h				■ファステストラップ: Lap 5 玉田 誠 1'48.524 159.260km/h			
	■サーキットレコードラップ: 2002 D.ベドロサ 1'58.354 146.033km/h				■サーキットレコードラップ: 2000 中野 真矢 1'52.253 153.970km/h				■サーキットレコードラップ: 2004 玉田 誠 1'48.524 159.260km/h			
	■サーキットベストラップ: 2003 D.ベドロサ 1'57.736 146.799km/h				■サーキットベストラップ: 2004 D.ベドロサ 1'52.137 154.129km/h				■サーキットベストラップ: 2004 玉田 誠 1'46.673 162.024km/h			

ファステストラップ: 当該レースにおける決勝中の最速ラップタイム

サーキットレコード: 過去から当該レースまでの決勝レース中の最速ラップタイム(フリー走行、予選は含まれない)

サーキットベストラップ: 過去から当該レースまでの全セッションにおける最速タイム

※マシン略称 A=アプリリア、D=ドゥカティ、DER=デルビ、G=ジレラ、H=ホンダ、K=カワサキ、S=スズキ、Y=ヤマハ

※タイヤ略称 B=ブリヂストン、D=ダンロップ、M=ミシュラン



2005年

2005 FIM MotoGPロードレース世界選手権シリーズ 第12戦 9月16日(金) 公式練習 天候:晴 観客: 7,053人
betandwin.com 日本グランプリ 17日(土) 予選 天候:晴 観客: 20,982人
18日(日) 決勝 天候:晴 観客: 68,015人

	125cc				250cc				MotoGP			
予選	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ
	1 G.タルマクシ	KTM	1'58.653	D	1 青山 博一	H	1'51.843	D	1 L.カピロッシ	D	1'46.363	B
	2 小山 知良	H	1'58.920	D	2 J.ロレンゾ	H	1'51.859	D	2 J.ホプキンス	S	1'46.861	B
	3 M.パシニーニ	A	1'58.970	D	3 青山 周平	H	1'52.374	B	3 M.メランドリ	H	1'46.867	M
決勝	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ
	1 M.カリオ	KTM	30'10.854	D	1 青山 博一	H	43'52.454	D	1 L.カピロッシ	D	43'30.499	B
	2 T.ルティ	H	30'10.965	D	2 D.ペドロサ	H	43'57.767	D	2 M.ピアッジ	H	43'31.978	M
	3 H.ファウベル	A	30'12.371	D	3 C.ストーナー	A	44'00.235	D	3 玉田 誠	H	43'46.726	M
データ	■ファステストラップ: Lap 7 M.TUNEZ 1'59.018 145.218km/h				■ファステストラップ: Lap 14 D.ペドロサ 1'53.199 152.683km/h				■ファステストラップ: Lap 3 L.カピロッシ 1'47.968 160.080km/h			
	■サーキットレコードラップ: 2002 D.ペドロサ 1'58.354 146.033km/h				■サーキットレコードラップ: 2000 中野 真矢 1'52.253 153.970km/h				■サーキットレコードラップ: 2005 L.カピロッシ 1'47.968 160.080km/h			
	■サーキットベストラップ: 2003 D.ペドロサ 1'57.736 146.799km/h				■サーキットベストラップ: 2005 青山 博一 1'51.843 154.534km/h				■サーキットベストラップ: 2005 L.カピロッシ 1'46.363 162.496km/h			

2006年

2006 FIM MotoGPロードレース世界選手権シリーズ 第15戦 9月22日(金) 公式練習 天候:曇 観客: 8,586人
A-STYLE 日本グランプリ 23日(土) 予選 天候:曇 観客: 24,619人
24日(日) 決勝 天候:晴 観客: 63,195人

	125cc				250cc				MotoGP			
予選	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ
	1 A.パウティスタ	A	1'57.231	D	1 J.ロレンゾ	A	1'51.374	D	1 L.カピロッシ	D	1'45.724	B
	2 M.カリオ	KTM	1'57.510	D	2 A.ドビツィオーゾ	H	1'51.955	D	2 V.ロッシ	Y	1'45.991	M
	3 H.ファウベル	A	1'58.128	D	3 A.デアンジエリス	A	1'52.014	D	3 M.メランドリ	H	1'46.250	M
決勝	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ
	1 M.カリオ	KTM	41'40.970	D	1 青山 博一	KTM	43'36.310	D	1 L.カピロッシ	D	43'13.585	B
	2 A.パウティスタ	A	41'41.155	D	2 A.デアンジエリス	A	43'37.651	D	2 V.ロッシ	Y	43'18.673	M
	3 J.シモン	KTM	41'48.739	D	3 J.ロレンゾ	A	43'40.659	D	3 M.メランドリ	H	43'21.963	M
データ	■ファステストラップ: Lap 11 M.カリオ 1'57.666 146.886km/h				■ファステストラップ: Lap 18 青山 博一 1'52.800 153.223km/h				■ファステストラップ: Lap 16 V.ロッシ 1'47.288 161.095km/h			
	■サーキットレコードラップ: 2006 M.カリオ 1'57.666 146.886km/h				■サーキットレコードラップ: 2000 中野 真矢 1'52.253 153.970km/h				■サーキットレコードラップ: 2006 V.ロッシ 1'47.288 161.095km/h			
	■サーキットベストラップ: 2006 A.パウティスタ 1'57.231 147.431km/h				■サーキットベストラップ: 2006 J.ロレンゾ 1'51.374 155.185km/h				■サーキットベストラップ: 2006 L.カピロッシ 1'45.724 163.478km/h			

2007年

2007 MotoGP世界選手権シリーズ 第15戦 9月21日(金) 公式練習 天候:晴 観客: 8,592人
A-STYLE 日本グランプリ 22日(土) 予選 天候:晴 観客: 24,105人
23日(日) 決勝 天候:雨 観客: 57,617人

	125cc				250cc				MotoGP			
予選	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ
	1 M.パシニーニ	A	1'57.301	D	1 青山 周平	H	1'51.327	D	1 D.ペドロサ	H	1'45.864	M
	2 小山 知良	KTM	1'57.892	D	2 A.ドビツィオーゾ	H	1'51.466	D	2 V.ロッシ	Y	1'46.255	M
	3 G.タルマクシ	A	1'58.175	D	3 J.ロレンゾ	A	1'51.765	D	3 N.ヘイデン	H	1'46.575	M
決勝	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ	P ライダー	マシン	タイム	タイヤ
	1 M.パシニーニ	A	46'29.900	D	1 M.カリオ	KTM	48'28.585	D	1 L.カピロッシ	D	47'05.484	B
	2 G.タルマクシ	A	46'32.885	D	2 A.ドビツィオーゾ	H	48'33.478	D	2 R.ドビュニエ	K	47'16.337	B
	3 H.ファウベル	A	46'52.305	D	3 H.バルベラ	A	48'50.112	D	3 T.エリアス	H	47'17.010	B
データ	■ファステストラップ: Lap 5 R.ペドロサ 2'10.998 131.937km/h				■ファステストラップ: Lap 13 A.ドビツィオーゾ 2'04.160 139.204km/h				■ファステストラップ: Lap 23 T.エリアス 1'50.718 156.104km/h			
	■サーキットレコードラップ: 2006 M.カリオ 1'57.666 146.886km/h				■サーキットレコードラップ: 2000 中野 真矢 1'52.253 153.970km/h				■サーキットレコードラップ: 2006 V.ロッシ 1'47.288 161.095km/h			
	■サーキットベストラップ: 2007 M.パシニーニ 1'56.954 147.781km/h				■サーキットベストラップ: 2007 青山 周平 1'51.327 155.250km/h				■サーキットベストラップ: 2006 L.カピロッシ 1'45.724 163.478km/h			

ファステストラップ: 当該レースにおける決勝中の最速ラップタイム

サーキットレコード: 過去から当該レースまでの決勝レース中の最速ラップタイム(フリー走行、予選は含まれない)

サーキットベストラップ: 過去から当該レースまでの全セッションにおける最速タイム

※マシン略称 A=アプリリア、D=ドゥカティ、DER=デルビ、G=ジレラ、H=ホンダ、K=カワサキ、S=スズキ、Y=ヤマハ

※タイヤ略称 B=ブリヂストン、D=ダンロップ、M=ミシュラン

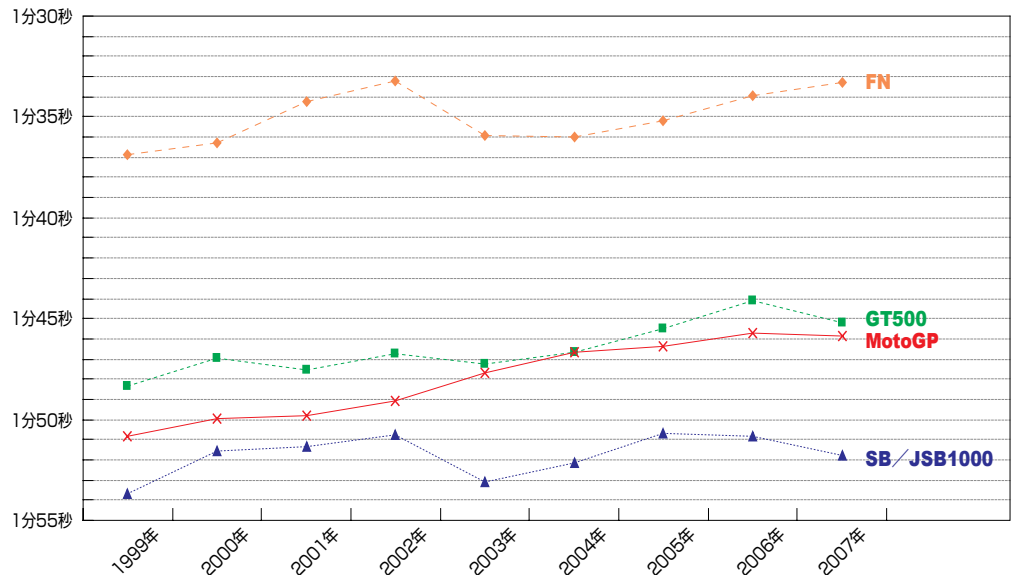


ポールポジションタイムと最高速度の変化

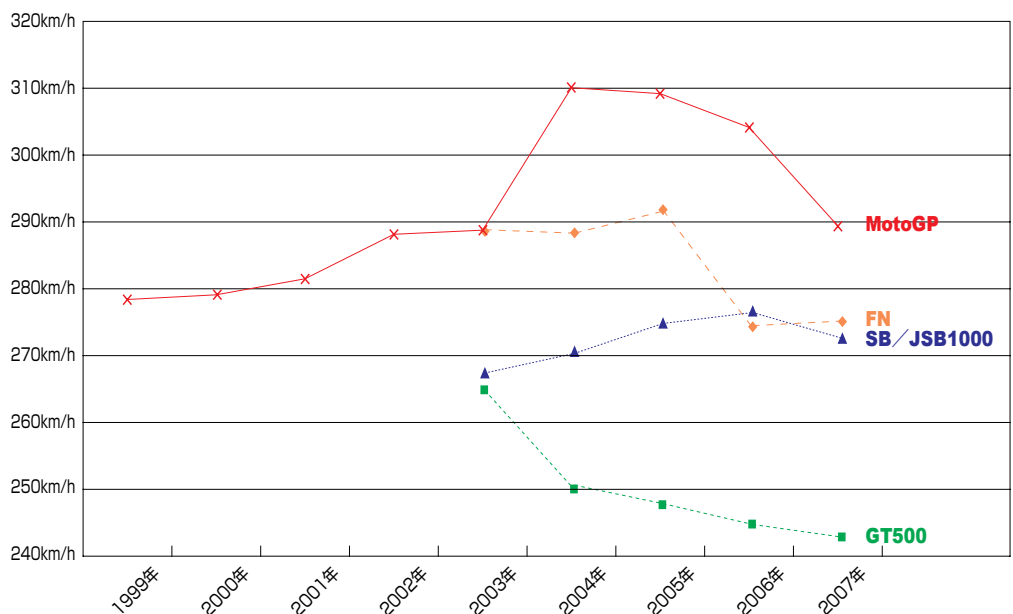
2002年MotoGPクラス新設により4ストローク990ccエンジンが導入され、開発が進んだ2004年には、最高速度は飛躍的に伸びた。安全性の理由でその速度を抑制するため2007年より排気量は800ccに縮小されたが、それでもポールポジションタイムは上昇傾向にある。これは、コーナリング速度の向上を意味しており、どれだけスピードを維持しながらコーナーをクリアできるかが、現在のMotoGPマシンを速く走らせるカギとなっている。そしてそのために、世界最高峰と呼ぶに相応しい最新テクノロジーを駆使した様々な制御システムが導入されているのだ。当然ながら、4本のタイヤでガッチリと路面をグリップするフォーミュラ・ニッポン、スーパーGTには、コーナリング速度で及ばないため、それがポールポジションタイムでの差となって現れているのだが、最高速度ではパワーウエイトレシオで勝るMotoGPマシンに軍配が上がり、その結果、1周のタイムではスーパーGTに匹敵する。

MotoGPマシンはヘアピンコーナーで50km/hほどまでに減速した後、わずか数秒で300km/h近い速度まで一気に加速する。普通ならバイクから振り落とされるほどの状況でライダーは冷静に他のマシンとのバトルを行なっていることを考えるとGPライダーのテクニック、体力、精神力の強さは、まさに驚異的であると言える。

ポールポジションタイム



最高速度



※ FN、GT500、SB/JSB1000の数値について

ポールポジションタイム：雨天の場合、その他のセッションでの最速タイムを比較数値としています。
最高速度：非公式の記録です。2003年以降の記録を比較数値としています。



年間参戦した日本人ライダー

1999

125cc	250cc	500cc
東 雅雄 宇井 陽一 上田 昇 坂田 和人	宇川 徹 徳留 真紀 中野 真矢 眞子 智実	青木 宣篤 青木 治親 阿部 典史 岡田 忠之 原田 哲也

2004

125cc	250cc	MotoGP
	青山 博一 関口 太郎 松戸 直樹	青木 宣篤 阿部 典史 玉田 誠 中野 真矢

2000

125cc	250cc	500cc
東 雅雄 宇井 陽一 上田 昇	宇川 徹 加藤 大治郎 中野 真矢 松戸 直樹	青木 宣篤 阿部 典史 岡田 忠之 原田 哲也 小西 良輝

2005

125cc	250cc	MotoGP
小山 知良 葛原 稔永	青山 博一 関口 太郎 高橋 裕紀	玉田 誠 中野 真矢

2001

125cc	250cc	500cc
東 雅雄 宇井 陽一 上田 昇	加藤 大治郎 原田 哲也 松戸 直樹	青木 治親 阿部 典史 宇川 徹 中野 真矢 芳賀 紀行

2006

125cc	250cc	MotoGP
小山 知良	青山 周平 青山 博一 関口 太郎 高橋 裕紀	玉田 誠 中野 真矢

2002

125cc	250cc	MotoGP
東 雅雄 宇井 陽一 上田 昇	青木 治親 関口 太郎 松戸 直樹	青木 宣篤 阿部 典史 宇川 徹 加藤 大治郎 中野 真矢 原田 哲也

2007

125cc	250cc	MotoGP
小山 知良	青山 周平 青山 博一 関口 太郎 高橋 裕紀	玉田 誠 中野 真矢

敬称略、五十音順

2003

125cc	250cc	MotoGP
東 雅雄 宇井 陽一	松戸 直樹	青木 宣篤 宇川 徹 清成 龍一 玉田 誠 中野 真矢 芳賀 紀行